

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## めざす学校像

自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。

- 1 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。
- 2 自ら学び、理論的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
- 3 安全で安心の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 学力の伸び率・伸ばせ率の更なる向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」のために、新学習指導要領の趣旨を生かし授業改善を継続、発展させる。＜教員の授業力アップ＞

ア 確かな学力を確立するために、年2回の授業アンケート、記述式アンケートを授業改善委員会で分析を行い、さらなる授業改善を図る。

イ 研究授業、公開授業の質を高め、授業者も見学者も充実感をもつことのできる取組みにする。

ウ 「わかる授業」を実現するため「平成26年度学校経営推進費」で「ICTを活用した授業改善」を推進する。

※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答（平成25年度60%）を、平成28年度には75%にする。学習の手引きは役立っている肯定的回答（平成25年度35%）の5%アップを図る。

エ 自ら学ぶ力を育むために図書室の活用を図る。

(2) 生徒に応じた学習支援を行い、生徒に学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。

ア 進路実現に向けて

・進学実績等で達成感を維持する。国公立開関同立産近甲龍130名、センター志願者50名以上

・S講座（外部講師が本校で講習をする実力養成講習）を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する（1、2、3年平日放課後）。

・年間通して土曜日、平日放課後、早朝に講習を実施する。夏季講習を実施する。自習室の利用促進を図る。

・上記土曜講習の中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する（1、2年）。

※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答（平成25年度80%）を維持する。

イ 成績不振者対応

平日や土曜に指名補習を実施する。1、2年は土曜講習の中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する。

※成績不振による原級留置者0名を目標とする。

ウ 漢字検定、英語検定等を1、2年生全員受検させる。

※生徒が達成感を持って、漢字検定に取組むよう、総合と国語科授業で連携しながら前年度より3級不合格者を減少させる。また、2年次において、前年度の3級不合格者の半数以上を合格させる。

英語検定の前年度合格取者数を確保しつつ、TOEIC BRIDGEの有効性を比較検討し、達成感等を持たせる取組を策定する。

## 2 安全で安心な学校・生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成

(1) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成する。

ア 遅刻指導、服装指導、ベル着指導（チャイムと同時に授業開始）を継続しておこなう。

※年間遅刻数1500回（年間一人平均1.5回）以下を維持する。

(2) 国際社会で通用する人材を育成するため3年間のLHR計画を策定し、志（こころざし）学に取り組む。特に生命尊重の取組み、防災教育の取組み、人権尊重の教育、キャリア教育、健康教育を推進する。国際理解教育の一環として、オーストラリアのマジー高校との交流と、語学研修の実現とその成果を共有化。

(3) 教育相談を充実させ、困り感を有する生徒の個別の支援教育活動を充実させる。

「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を平成28年度には10%アップを図る。

(4) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。

ア 特別活動を活性化させる。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。

イ 生徒委員会活動等を活性化させる。（図書委員、保健委員、HR代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員）

※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答を毎年7割をめざす。（平成25年度68%）

## 3 人材育成と広報活動等の充実

(1) ミドルリーダーの育成に力を入れる。

(2) 設立6年目を迎えるGUTS（若手塾）の取り組みで経験の少ない教員の育成を図るとともに、講師となる経験豊かな教員の自覚を促す。本校でのOJTを進化させる。

(3) 本校の特色を活発に広報する。

ア ウェブページ、本校の学校紹介のパンフレット、プレゼンテーションソフト、DVDを適宜更新するとともに、中学校、塾の訪問を継続実施する。

(4) 開かれた学校づくりの推進

地域の強みを生かした教育活動（幼小中高大連携および地域連携）を展開する。

※新入生アンケートの「吹田東高校のホームページを見たことがある」の回答（平成25年度62%）を引き上げ、平成28年度には70%以上に上げる。

## 4 ICTを活用した校務等の効率化

(1) 新たに導入される校務処理システムを積極的に活用し、学習状況や健康管理に関する情報と課題を共有することにより、生徒と向き合う時間を確保する。校務処理システムを3年間で、全学年実施する。

(2) 分掌や学年等が個々に管理していた情報について、ICTを活用して一元管理するとともに、教職員間で情報共有できるシステムを構築する。

## 5 仮校舎建設・移転と新校舎建替えの推進及び学校改善の好機ととらえた取組推進

(1) 仮校舎の建設及び移転に関する取組み。

(2) 安全で安心な教育環境の整備等に関する取組み。

(3) 仮校舎の有効活用及び新校舎建替えに向けた取組み。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・生徒「進学してよかった」1年69.0%、2年46.9%、3年76.3%。 保護者「進学させてよかった」1年87.4%、2年85.4%、3年90.8%。 保護者の評価は高い。生徒に対して「先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」「担任の先生は気軽に相談することができる」「担任以外に相談できる先生がいる」について改善が必要。</p> <p>・施設・設備の不備については、生徒・保護者とも不満が高い。施設の老朽化が目立つためと思われる。来年度は、新しい校舎で改善される。</p> <p>・規則正しい生活を身につけていることの評価は高い。</p> <p>・生徒個々の進路目標の設定がなかなかできないことについては、進路指導に対応が求められている。</p> <p>・ホームページについて、保護者は内容の更新に対して不満がある。古い内容に関して、新しいものに変えるように指示した。</p>	<p>第1回（平成26年6月24日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベル着を実践できること、国際交流を行ったこと、通学マナー等アピールポイントとして広報する。もっとリーフレットをわかりやすくできる。</li> <li>・授業の質を高めることが最も大切。授業アンケート等生徒の意見を取り入れ、教員同士で議論し、先進的な双方向授業や反転授業に取り組みれば活性化される。</li> </ul> <p>第2回（平成26年11月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻の減少、部活の加入率の上昇から積極的に勉強・部活に取り組んでいる印象を受ける。</li> <li>・自転車登校のマナーは他校に比べて良く、クリーンキャンペーンにも真面目に取り組んでいる。</li> <li>・電子黒板の活用はこれからが大切。</li> </ul> <p>第3回（平成27年1月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の学校満足度は卒業時の結果が大切。今後の取組みに期待する。</li> <li>・毎年遅刻が減っているのは驚異的なことだ。欠席者少ないのは評価できる。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況
学力の伸び率・伸ばせ率の更なる向上	<p>(1) 「わかる授業」「できる授業」のために、授業改善を継続、発展させる。ア 授業改善委員会をより活性化し、授業改善を図る。イ 研究授業、公開授業の質を高め、授業者も見学者も充実感をもつことのできる取組みにする。ウ 「わかる授業」を実現するため「平成26年度学校経営推進費」で「ICTを活用した授業改善」を推進する。エ 自ら学ぶ力を育むために図書室の活用を図る。(2) 生徒に応じた学習支援を行い、生徒に学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。ア 進路実現のための講習の種類と内容を充実させる。イ 成績不振者を指名講習で指導する。ウ 漢字検定、英語検定を1、2年生全員受検。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート、授業観察シートについて、授業改善委員会・教科で検討・実践する。府教育センターによるパッケージ研修の実施。イ 年2回の公開授業期間等で、教員相互の授業見学により授業力の向上を図る。・千里丘中学の公開授業に参加することにより、中学との接続を意識した授業を行い、生徒の授業理解度を高める。ウ・ICTの活用で、理解度、生徒の授業への参加意欲を向上させる。電子黒板を活用した授業教材を開発エ・図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書のすすめ(2) ア 進学実績等で達成目標を設定する。自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・自習室の利用を促し、授業以外の学習時間を増加させる。・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。講習参加者が最後まで継続できるように、欠席者に対して指導を行う。イ・指名講習の欠席者に対しては、生徒を指導するとともに保護者にも連絡する。ウ・合格に向けて週休日の家庭学習の定着を図るため、総合等で基礎学力診断テストを実施し、成績不振者は放課後に個別指導をする。1、2年生、漢字検定で前年度より3級不合格者を減少させる。また、2年次において、前年度の3級不合格者の半数以上を合格させる。英語検定の合格者数(準2級1次1,2年110名)を確保しつつTOEICBRIDGEテストについても実施し、双方の有効性を検討する。</p>	<p>(1) ア・2回目において、生徒意識(興味関心、知識技能項目の向上。授業観察シートの活用度向上。イ・教員相互の授業見学(平成25年度78%) ・中学公開授業参加者を増やす(平成25年度7名) ウ 新規ICT活用者援助。15点以上の教材開発を行う。 エ 表現演習・政治経済演習・総合の時間等確保する。生徒図書委員による図書館便りの発行。来室生徒数、貸出冊数の増 (2) ア 関西私大(国公立関関同立産近甲龍)現役合格者数115名・センター志願者50名以上。・現1年生の2年次4月の診断テストで、Bゾーン以上の生徒比率を今年度より5%以上アップさせる。・保護者懇談参加率の上昇(平成25年度94%)・授業以外の学習時間1時間以上の生徒増加(平成25年度44%)・自習室の利用1日平均12人以上。イ・成績不振による原級留置者0人。 ウ・漢字検定の不合格者数半減(平成25年度1年108人、2年18人)・英語検定の取得率上昇。TOEICBRIDGEの有効性を検証する。</p>	<p>(1) ア 興味関心 2.98→2.97 知識・技能 3.04→3.04 イ 授業観察シートの改定 ・全教員が公開1回以上、・中学校公開授業参加者10名(○) ウ 電子黒板機能付プロジェクター25台購入15台個人貸出、来年度仮校舎建設時に普通教室に設置予定(○) エ 3年生国語演習・政治経済、1年生英語で利用。来室者、貸出図書数はやや減少。2年生の利用が少ない。ライブラリーニュース発行(△) (2) ア 合格者数 推85名(◎) センター志願者 91名(59名)(◎) Bゾーン ※2年次はスタディサポートを実施、240から195で45名減少(△)但し、区分が異なり実質は横ばいと判断。 保護者懇談1年311/321 2年323/358 3年283/314 全体92.4%(○) 家庭学習時間 1年39.9% 2年33.2% 3年68.6% 平均47.2%(○) 自習室1日平均10人(△) イ 原級留置者 成績不振は0名(○) ウ 漢字検定108人中81人合格(◎) 英語検定準2級1次1,2年109名(○) 来年度よりTOEICBRIDGEに変更。目標を点数化することにより、頑張りやすくする。</p>
安全安心な学校、生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の醸成 ア 遅刻指導の継続実施 (2) 国際社会で通用する人材の育成のため、志学、人権尊重の教育、防災教育、キャリア教育、健康教育、国際理解教育を推進する。 (3) 教育相談を充実させ、個別の支援教育活動を充実させる。 (4) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。 ア 特別活動を活性化する。(学校行事、学年行事、部活動) イ 生徒委員会活動を活性化させる。</p>	<p>(1) ア 遅刻指導、服装指導、ベル着指導を継続しておこなう。・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。・服装指導の高い評価を継続する取組み推進、清掃習慣の定着に向けた取組み推進。 ・授業を大事にするためのベル着指導を徹底する。 (2) 3年間のLHR計画を策定。平成24年度に整備した多目的室「こころざしルーム」を積極的に活用し利用率の向上を図る。国際理解教育の実施。 (3) 教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。高校生活支援カードの有効利用 ・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。また、必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。 (4) ア・学習活動を中心にすえた上で、学校行事・部活動に取組ませることで段取り力を育成し、達成感を持たせる。1,2年生耐寒行事の実施。・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化させる。イ・各生徒委員会を指導する分掌や係を明確化する。それにより、生徒委員会活動を活性化させる。</p>	<p>(1) ア 年間遅刻数(年間一人平均1.5回)を現状確保(平成25年度1.54回)。生徒が前向きな清掃活動実施。 (2) こころざしルームの有効利用100回以上(平成25年度132回)・オーストラリアとの交流・語学研修実施。 (3) 「担任に気軽に相談できる」「担任以外に相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率向上 (4) ア・「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答の上昇(平成25年度69%) ・新入生の部活動加入率の上昇(平成25年度81%)・生徒委員会活動の年間計画策定</p>	<p>(1) 1.08回(昨年1.54回)(◎) (2) 117回(○) 4月マジー高校生7名来校7月本校生徒11名マジー高校訪問(◎) (3) 「担任に気軽に相談」58.7%(54.8%) 「担任以外に相談」38.3%(36.6%)(○) (4) ア 「クラス活動」68.8%(66.0%) 「体育祭、文化祭」71.6%(69.4%)(○) 部活動加入率(昨年) 1年88.7%(81%)(◎) 2年80.7%(84%) イ 年間計画未完成⇒年間活動報告作成、次年度は年間計画作成が容易になった。 (委員会活動については別紙参照)(○)</p>
人材育成と広報活動等の充実	<p>(1) (2) ミドルリーダーの育成。GUTS(若手塾)で経験の少ない教員の育成を図る。 (3) 本校の特色を活発に広報する。ウェブページ、パンフレット、プレゼンテーションソフト、DVD更新。中学校、塾の訪問を継続実施する。 (4) 開かれた学校づくりの推進地域の強みを生かした教育活動(幼小中高大連携および地域連携)を展開する。</p>	<p>(1) 校内での研修においては、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。特にミドルリーダーの育成を図る。 (2) 広報渉外を担当するGTOの業務と運営について検討し、見直しを行う。 (3) ウェブページは最低月2回更新をして、新しい情報を発信する。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションソフトやDVDをさらに魅力あるようにバージョンアップする。・中学校訪問、塾訪問を継続実施し、情報収集と広報に努める。 (4) ・幼稚園での生徒実習をおこなう。 ・中学校との相互の公開授業を行う。・大阪大学等との連携を継続する。・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 ・クリーンキャンペーンを地域に広報し、地域の人にも参加していただく。</p>	<p>(1) GUTS年間8回以上(平成25年度8回)(2)より多くの教員による中学校訪問の実施。(平成25年度約30人)(3)ウェブページの更新回数24回以上(平成25年度23回)・新入生アンケートで「吹田東高校のホームページを見たことがある」の上昇(平成25年度62%)。塾関係者対象学校説明会の開催と参加者の増加(平成25年度10塾11名参加) (4) ・幼稚園での生徒実習8回維持・地域教育協議会等への参加等を昨年と同程度確保 ・クリーンキャンペーンの参加者320名以上(平成25年度315名)</p>	<p>(1) 8回(○) (2) 全教員による中学校訪問実施(◎) (3) 25回(○) 塾については、説明会は止め、塾訪問を強化57教室訪問(◎) (4) 幼稚園実習10回(◎) 地域教育協議会参加 クリーンキャンペーン 357名(◎)</p>
ICTを活用した校務の効率化	<p>(1) 校務処理システムの積極的活用 (2) 分掌・学年等の情報の一元管理と、教員間で情報共有できるシステムを構築する。</p>	<p>(1) 新たに導入される校務処理システムを積極的に活用し、学習状況や健康管理に関する情報と課題を共有することにより、生徒と向き合う時間を確保する。 (2) 分掌・学年等の管理している情報について、ICTを活用して一元管理するとともに、教員間で情報共有できるシステムを構築する。</p>	<p>(1) 1、2学年で活用し、学習状況、健康管理に関する情報と課題を全教職員で共有するために、主担当者を複数名確保する。 (2) ICTパソコンの共有フォルダの枠組みの統一化を行う。</p>	<p>(1) 来年度の予定スタッフを11月中に内定。各学年2名、全体統括者1名(◎) (2) 7月14日までに統合ICT移行完了(◎)</p>
仮校舎建設・移転と新校舎建替えを学校改善の好機に	<p>(1) 仮校舎建設及び移転に関する取組み。 (2) 安全で安心な教育環境等の整備に関する取組み。 (3) 仮校舎の有効活用及び新校舎建築に向けた取組み。</p>	<p>(1) 仮校舎の建設が、日程どおり完成し、移転完了が行える体制づくり。(2)・自転車事故の起こらない取組み推進。・避難場所の確保及び避難経路の確立。・工事期間中の安全確保。・校外活動中の緊急対応の体制づくり。(3)・仮校舎の教室配置を教育活動へ有効活用できるよう検討する。1階図書室設置から読書習慣の喚起活動。清掃習慣の定着に向けた取組み推進。 ・仮校舎の有効活用等するプロジェクト委員会を設置し、検討をすすめる。</p>	<p>(1) ア 待機・連絡体制の整備。対応不備案件0。イ 校内に移転委員会を設置し、日程管理を行い、移転作業を年度内に完了する。 (2) ・確保した避難経路、場所での避難訓練の実施。・事故0 (3) ・プロジェクト委員会で、活用案をまとめる。図書、清掃について評価指標の策定。</p>	<p>(1) ア 平成27年1月6日から仮校舎建設工事が始まり、携帯電話を配備するなど、待機・連絡体制を確立した。工事に伴う支障案件への対応不備は0件。(◎) イ 平成26年7月に仮校舎委員会を設置し、移転スケジュールの管理及び備品等の確認・仕分けを行った。(◎) (2) 工事中の避難経路の指示、万博グラウンドでの活動の緊急連絡体制確立。(◎) (3) 保健委員会が大清掃時に清掃点検を行った。(○)</p>